

野 ぼ ら

テーブル人形劇場による一人芝居

原作：小川 未明
原案：川尻 泰司
作：藤原 玄洋

でてくるもの

スタッフ

語り

原作

小川 未明

老人

原案

川尻 泰司

青年

作

藤原 玄洋

商人

演出

一人芝居

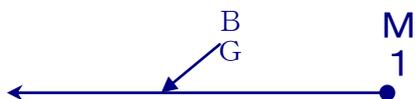
美術

音楽

効果

舞台監督

制作



第1コマ 国境の夏

—— テーブル舞台奥に、「野ばら」のタイトル・ボード。(石碑の前に立てかける)

語り これから始まる人形劇は、小川未明の「野ばら」というお話で

す。

—— 音楽。


タイトル・ボードの前に、野ばらを出す。タイトル・ボードを取り去ると、国境の碑が現れる。

語り 今からほんのすこし昔のお話です。大きな南の国と、それより

少し小さな北の国とが隣り合っていました。この二つの国の間には、何の争いも起こらず、平和なものでした。



老人

F
O

遠く都から離れたこの国境には、その境界をしめす小さな石碑が立っていました。それぞれの国からは、国境を守るために、一人ずつの兵隊が送られてきていました。大きな国の兵士は老人で、小さな国の兵士は青年でした。

ところが、二人は、毎日顔を合わしているのに、互いに口をきくのが何か恐ろしい気がして、言葉をかかわすことは、まったくありませんでした。

——老人、下手から、水の入ったバケツを持って、登場。山の空気を胸いっぱい

あ、あーあ。気持ちの良い朝じゃ。仕事とはいえ、こうカンカン照りが続くんじや、この老いぼれには、ちとこたえる。(野ばらに近づく) おや、いつの間に咲いたんじやろ。ウム、いい香りじゃ。毎日水をやるから、しつかり育ってくれよ。(ひしゃくで水を丁寧

——老人、野ばらに水をやり終え、下手に。

青年上手から、バケツを持って登場。野ばらに近づく。

老人ふりむき、青年に気づく。

老人 やあ、あんたもかな？

青年 あっ、おはようございます。

老人 おはよう。

青年 水をやらないと、枯れてしまいそうだったので……。

老人 ワシもじゃ。あんたは、花がお好きかな？

青年 ええ。

老人 そうかな。ワシの国じゃあ、今ごろは、菜の花が野原いっぱい咲きほこっていますよ。

青年 私の国は、まだ雪が残っていて、花はこれからです。でも、花が咲くときには、いつせいに咲くのです。とても美しいながめです。リラの花が咲くと、(息を吸って)あたりは香りでいっぱいにな

ります。

老人 ふるさとが、恋しいかな？

青年 はい。でも……私は前線に出て、一日も早く手柄を立てたいと思っています。

老人 あんたは、戦争がお好きなのかな？

青年 いや……そういうわけではありませんが……。

老人 あんたは、若くていらつしやるから……。

青年 そういうわけではありません。ここでは毎日まいにちが、タイクツの繰り返しです。

老人 そうじゃなあ。ここはなんもないし、なんも起こらん。めったに人も通らんし、若い人には、タイクツじゃろうて。

青年 はい。毎日、何もすることがないので。

老人 じゃ、どうか……あんたは将棋がおできになるかな？

青年 いえ、駒を並べる程度です。

老人 ほう、じゃあ、やってみんかね。
青年 はい。ぜひ、教えてください。

——老人と青年、バケツを持って、上下に退場。

野ばらをかたづけ、石碑を前に倒す。上部が将棋盤になっている。

老人と青年、上下から登場。将棋を始める。(老人が黒駒)

老人 まずは、あんたから、どうぞ。

青年 では、いきますよ。(ナイトをカゲから取り出し、駒を上げたように打つ)

老人 早速、ナイトのお出ましかな？(ビショップを取り出し、打つ)

青年 うーん……(コマを持って迷う) どうですか？(以下、交互に駒を動かす)

老人 下手な考え休むに似たり……ですかな。

青年 フッフ、見ていてください。これで、どうですか？

老人 それじゃ、あんたの大事な女王様をいただきますか。

青年 大丈夫です。

老人 では、王手ツミ(チェックメイト)じゃ。

青年 えっ？ あー、ちよつと待つてください。

老人 ハハハ、戦場では、待ったなしじゃよ。

青年 参りました。もう、一番お願いします。

老人 じゃ、あんたからどうぞ。(駒を並べかえる)

青年 今度は、油断しませんからね。

老人 ワシも、手加減はせんよ。

青年 ルークは——やめてと——ビショップで、どうです。

老人 それなら、こうじゃ。(駒を動かす) 敵同士のあんたと将棋盤を囲

むなんて、思いもしなかつた……。

青年 そうですね、でも、手加減はしませんから。うーん……と、あ

なたのナイトをいただきます。

老人 なるほど、じゃ、こうです。

青年 うーん……と、王手です。



老人 はて、困った。ワシの負けかな。これがほんとうの戦争だった

ら大変だ……ハツハツハハ。

青年 今日は、これくらいにして、あしたまたお願いします。

老人 いいとも。今日は、ほんとに楽しかったよ。

——二人は、上下に退場。

C
I

第2コマ 国境の冬

語り こうして夏が去り、秋も過ぎ、やがて……この国境にも冬がや
つてきました。

——将棋盤を起こして、石碑を観音開きになると、暖炉になる。

二人の人形を出す。



語り あたりの山々が雪にうずもれる頃になると、二人は暖炉の前で

夜のふけるのも忘れて、語り合うのでした。

老人 わしのほんとうの仕事は、大工でしてな。今だって家を建てさ

せば、誰にも負けませんよ。

F O

青年 そうですか。私は靴屋です。長靴を作るのが、得意なんです。

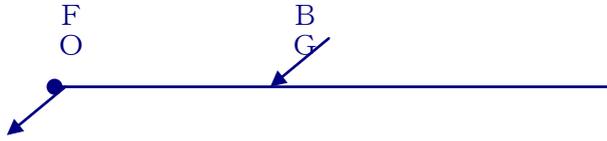
老人 じゃ、任務が終わったら、ワシの長靴を作ってくれんかな？

青年 いいですとも。りっぱなヤツを作ってさし上げますよ。

老人 それにしても、ばあさんや、孫たちは、今ごろ何をしているのや。あー、早く帰りたいもんだ。

青年 任務は、まだまだですね。もうすぐ春になりますから、そうしたら、川に魚を釣りに行ませんか？

C I



第3コマ

国境の春

語り

——暖炉を閉じると、国境の石碑になる。(二人は、そのまま残っている)
 とうとう厳しかった冬も去り、再び春がやってきました。
 はるか向こうから、物売りがやってきます。

老人

これは久しぶりじゃ。物売りかな？

青年

何か、街の様子が聞けそうですね。

——荷物をかついだ商人、下手から登場。

青年

やあ、街の景気はどうです？

商人

何をのんきなことをいつているんだ——。戦争が始まつてるん

F O

だぞ。知らないのか、お前さんたちの国同士は、今戦争をしているんだぜ。お前さんたちは殺し合いをしなくちゃならないんだ。

青年　　私たちが殺し合うんですって？

老人　　ワシたちが、かたき同士だって？　ハハハ……。

商人　　戦争が始まっているんだぞ。それなのに、二人で笑いあっているなんて……。お前たちはスパイじゃないのか？　二人ともスパイの罪で、銃殺にされるがいい。

——商人、怒って上手に去る。

老人　　ハハハ……。ワシたちが、スパイだと。

青年　　ワツハハハ……。私たちが敵同士ですって？

——二人、上下に退場。

語り　　しかし、悲しいことに、戦争の話は、ほんとうでした。それは、ずーっと西の方で始まっていたのです。

——老人、バケツを持って、下手より登場。野ばらに、水をやる。

しばらくして、青年、上手より登場。

老人 おはよう。

青年 (暗い声で) おはようございます。

老人 それでは、将棋を始めますかな？

青年 実は、西の前線に行くように、昨夜、命令が届きました。

老人 命令が？

青年 そうです。あなたの国と戦わねばなりません。戦って、手柄を立てねばならないのです。

老人 敵同士ですか……？ そうじゃ、あんたに手柄を立てさせてあげよう。ワシはこう見えても少尉だ。こんなに老いぼれでも、ワシの首を持っていけば、出世ができる。さあ、ワシを殺して手みやげに、前線に向かいなさい。

青年 私に？ あなたが殺せるとお思いですか？ 私にはあなたが敵

だとは、どうしても思えません。なぜ、あなたと殺し合ったりしなればならないんですか。

C
I

戦争とは、そういうもんじゃよ。

老
人

私は、西の前線へ行きます。そして、なぜ私たちが殺し合わなければならぬかを見きわめてきます。そして、もし、ここに再び帰ってこられたら、今度こそ二人で、このあたり一面に野ばらを咲かせましょう。

——青年は、野ばらを老人と自分の胸にかざる。

青
年

（元氣よく）じゃ、いつてきます。

老
人

いつてらっしゃい。

青
年

さようなら……。

——青年、上手に去る。

老
人

さようなら。



第4コマ

国境の夏

語り 老人は、来る日もくる日も、一日中目をこらし、耳を澄ませて、もしや戦争が終わって、あの青年がもどって来やしないかと、そればかりを考えながら毎日を送りました。

——商人、上手より登場。

老人 おやつ？ ああ、あのときの旅の方。戦争はどうなっているの
じやな？

商人 戦争はもう終わったよ。とつくに終わったよ。小さな国が負け

て、兵隊は皆殺しにされたそうだ。

老人 えっ、それじゃあ……。あー、もうあの青年も？

商人 そんなことは、知るもんか？

——商人、下手に去っていく。

老人 なぜ、戦争などあるのだ……。なぜ、あのようなやさしい立派な青年が、殺されなければならないのじゃ……。

——青年、後ろ向きで上手に現れる。宙に浮いたまま、老人の方を見る。

老人 あー、あんたは、無事だったのか。よかった、よかった。

——青年、老人に近づく。

老人 よく、無事でいてくれた……。。

——青年、静かに敬礼。消えていく。

F
O

老人 あゝ、もし……。待って——くれ——。

——青年を追いかける。

老人 夢だったのか……。

——老人、野ばらの前にうずくまる。やがて、起きあがって、下手に退場。

F
O

第5コマ エピローグ

語り 秋がくるとばらの花は散り、すっかり枯れてしまったように

(枯れた野ばらと、入れかえる) 残された野ばらだけが秋風にゆれており

ました。それから間もなく、老人は任務を終えて、南の方に帰っ



ていきました。

——音楽。

C I

語りながら、テーブル舞台に、たくさんの花の咲いた野ばらを並べる。

語 り

やがて再び春が来ました。誰もいなくなった国境には、前にもまして野ばらが、美しい花をたくさん咲きほこらせています。

これからも、来る春ごとに、さらにたくさんの花を、さらに美しく咲かせることでしよう——野ばらを愛し、平和を愛した二人のやさしい心のように。

U P

——語り、深々とおじぎをする。

——おわり——

2004年、人形舞台エミの川尻恵美子のために、テーブル人形劇として書き、演出しました。テーブル人形劇というのは、テーブルのような舞台の上に、人形を並べながら演じる人形劇です。

ムジカ音楽・教育・文化研究所で、川尻恵美子が人形劇講座を持っていて、研究所の総合発表会で、主におとなの観客を対象に、模範演技として上演された作品です。本作品は、川尻泰司が、スライド(幻灯)人形劇として発表したものを参考に、テーブル人形劇場として作り直しました。

2017年 藤原玄洋